



Evidence of Life on Venus

史上最大級の発見!? 金星に生命の兆候示す気体



生命存在の証拠となりうるホスフィンが発見されたとされる金星

これだけは覚えておきたい!!

Venus [vi:nəs]	金星
alien life [éilíən láif]	地球外生命(体)
detect [dítékt]	~を見つける、検出する
trace [tréis]	形跡、(存在する)しるし
microbe [máikroub]	微生物

聴くこと、声に出すことが成長への近道!

🎧 編集長おすすめトレーニング

Practice 1 英文を見ずに、CNNの生英語(3)を聴いてみよう。

Check!

Practice 2 英文を見ながら音声を聴いてみよう。
必要ならゆっくりスピード(ポーズなし(4)/ポーズ入り(5))も活用してみてください。

Practice 3 日本語訳を参考に内容を理解し、音声を繰り返し聴いて耳を慣らそう。
さらに、音声をまねながら音読すると、吸収力がグンと上がります。

プラスアルファ 余力のある方は、巻末の問題集にチャレンジしてみてください。

Evidence of Life on Venus

And 2020 isn't done yet. Now comes word of possible alien life on Venus. Scientists have detected traces of a gas called phosphine, which is toxic to humans but could be evidence that microbes live in the clouds of the planet—little organisms **that would be a big deal**. NASA calls it “the most significant development yet in building the case” that there's life out there.

≫66 words (September 15, 2020)

史上最大級の発見!? 金星に生命の兆候示す気体

そして、2020年(のビッグ・ニュース)はまだまだある。今度は地球外生命が金星に存在する可能性があるというニュースが届いた。研究チームはホスフィン(気体状リン化水素)という気体が存在する形跡を(金星で)発見した。ホスフィンは人体には有毒なガスだが、金星を取り巻く雲の中に微生物が存在する証拠となるかもしれない。(見つければ)大きな意味を持つ微小な生命体だ。NASAはこの発見を、「地球外に生命体が存在するという説を立証するに当たって今までで最も重要な進展だ」と述べている。

(訳 石黒円理)

リスニングのポイント

本当はカナ表記では正確な発音を表せないのですが、音の大体のイメージをつかんでいただくために、あえてカナ表記を用います。「聞こえ方」のひとつの目安にしてください。

普通は破裂が聞こえる子音であっても、

すぐ後ろに別の子音が続く場合、しばしば破裂が聞こえなくなる。

4行目の**that would be a big deal** ≫ [ザツ(ト) ウツ(ド) ビエイビツ(グ) ディーヨ]

[p]、[b]、[t]、[d]、[k]、[g]の音は、普通は破裂が聞こえる子音であり、「破裂音」と呼ばれます。しかし、すぐ後ろに別の子音が続く場合、しばしば破裂が聞こえなくなります。that would be a big dealでは、thatの[t]の音、wouldの[d]の音、bigの[g]の音の破裂が聞こえませんが、その理由はいずれも異なります。thatの[t]の音は、実際には発音されず、代わりに、息を止めたような間(ま)が聞こえます。wouldの[d]の音は、すぐ後ろにbeの[b]の音(唇を

カナ表記の中の太字は、強く発音される部分を表します。また、括弧に入っている部分は、普通、日本人の耳には聞こえないか、実際に発音されていない音を表します。

閉じて発音する音)が続いていますので、その影響を受けて、wouldの[d]の音も[b]の音に変わります。このような現象を「同化」といいます。その結果、would beが「ウツビ」のように聞こえます。bigの[g]の音は、口の中で構えは作られています、破裂が起こる前に、次のdealの[d]の音の構えが作られるため、2つの音が重なってしまい、後の[d]の音の破裂しか聞こえません。

解説 南條健助(桃山学院大学国際教養学部准教授)